

特集

〈事例〉

送迎により就業環境を整備 会員の活動の場を広げる

公益社団法人
角田市シルバー人材センター

(宮城県)

角田市SCは、令和6年度、移動手段がなく就業を諦めていた未就業会員を対象に、集合型の就業場所と送迎とを組み合わせた就業環境整備事業に取り組んだ。この事業で行った出張サロンや傾聴ボランティアの活動は好評を得て、令和7年度も継続することになり、会員の活躍の場を広げることにつながったほか、市民の健康増進や生きがいくりなど地域社会にも貢献するという成果を残した。

未就業会員に対して 就業環境を整備

角田市SCでは、働きたいが移動手段がないという事情を抱える未就業会員の要望に応えるため、令和6年度に「未就業会員への就業環境整備事業」(以下、就業環境整備事業)を利用し、集合就業と送迎を合わせた事業に取り組んだ。

ここ数年、センターの会員数は増加傾向にあるものの、会員の平均年齢は上昇している。それに伴い、運転免許証の返納や自転車の運転をやめたことにより移動が困難となる会員が増加していた。角田市は、自動車による移動が必要な土地柄で、公共交通機関として

はデマンド型乗合タクシー(希望日時を事前に予約し、予約した者同士が同じ車両に乗り合い、自宅から目的地まで送迎してもらえタクシ)が運行されている。しかし、車両台数が限られていることや所要時間が長くなってしまいうことから、利用者数は年々減少しているという。

こうした事情から就業を諦め、未就業状態になってしまう会員が目立つようになり、センターでも会員の移動手段の確保は重要な課題であった。

佐藤久美子常務理事は「未就業会員の中には、何らかの形で社会参加をしたいと考えている人が少なくありません。こうした希望に

対応するためにも、就業環境整備事業に取り組むことにしました」と話す。

就業環境整備事業は、集合型の就業場所の確保と送迎を組み合わせることで、未就業会員の就業機会の増加を図り、会員が生きがい等を持つて就業できる環境を整備することを目的としている。また、センターでは、市民に交流の場を提供することで地域社会に貢献することも目指した。

就業環境整備事業の 具体的な内容

センターでは、就業環境整備事業として、①出張サロンの開催、②福祉施設での傾聴ボランティア、

③公共施設等における就業（清掃・除草等）の三つの取り組みと送迎を組み合わせ、令和6年8月から令和7年3月まで実施した。送迎業務は、地元のタクシー会社に協力を仰いだ。

①出張サロンの開催

センターが市内で運営している街なか交流サロン「ひだまり」は、平日は毎日開放しており、市民が気軽に立ち寄れる交流の場となっ



出張サロンでは、就業会員と市民が一緒に「いきいき百歳体操」でいい汗をかいた

ているほか、各種講座や茶話会等も開催して好評を得ている。一方、家から遠いなどの理由で「ひだまり」まで行けないという市民の声も寄せられていた。こうした声に応えるため、普段「ひだまり」を利用できない人でも参加しやすいよう地域の自治センター4か所を会場に、出張サロンを開催した。

出張サロンのスタッフは、「ひだまり」での就業経験があるものの、移動手段を確保できず未就業状態になっている会員などに声を掛けて募った。

出張サロンは、令和6年8月から令和7年3月までの間、各会場で8回ずつ、合計32回開催した。1回につき会員3〜8人が担当し、延べ118人が就業した。出張サロンに参加した市民は延べ310人に上り、事前に会員から誘われたという人がほとんどだった。

出張サロンの開催は、1回当たり1時間30分程度である。会員が進行や盛り上げ役となり、介護予

防体操「いきいき百歳体操」や、ボールを使ったボードゲームなどを行った。

会場には、開始時刻の30分前から着くように、就業会員が自宅などから送迎タクシーに乗り合わせて向かった。毎回、事務局職員が同行し、事前準備から終了までを見守った。

参加者からは「初めてボードゲームをしたが、楽しかった」「これを機に『いきいき百歳体操』を続けていきたい」といった声が寄せられ、好評だった。

出張サロンのスタッフとして運営に関わった高橋達征理事長は、「明るい雰囲気の中で、楽しく開催できたと思います。サロンが市民の健康維持の助けになればうれしい」と話す。

就業環境整備事業を担当した菊池貴之事務局長は、「スタッフを務めたのは年齢が高い会員が中心で、中には加齢によりそれまでやっていた仕事から離れた人もいま

した。そうした会員にとって、出張サロンは新たな活躍の場となりました。未就業状態で、センターに来ることがほとんどなかった会員が、出張サロンのスタッフとして就業することでやる気を取り戻し、回を重ねることに生き生きとした表情になっていく様子に触れ、この事業に取り組んで良かったと心から思いました」と語る。

出張サロンに参加した市民は70〜80代が中心で、参加者数は予想を大きく上回ったという。中には久しぶりに友人に出会ったという人もおり、話が弾んだそうだ。佐藤常務理事は「出張サロンという外出の目的ができたことがきっかけとなり、皆さんの生活にも張り合いが生まれたのではないかと思います」と話す。

就業環境整備事業としての出張サロンは令和7年3月で終了したが、就業会員、参加者の双方から好評だったこともあり、継続していくことになった。令和7年4月



傾聴ボランティアに参加した会員は、乗り合わせて送迎タクシーを利用した

からは「ひだまり」と同じく、市からの委託事業である高齢者サロン運営業務の一つとして、地域の自治センター4か所を会場に、月1回ペースで開催している。

②福祉施設での傾聴ボランティア

センターでは、傾聴ボランティアを実施するに当たり、以前センターで開催した「傾聴ボランティア養成講座」を受講した会員や、福祉関係の仕事の経験がある会員などに参加を呼び掛けた。

会員はデイサービスセンターな

ど3か所の施設を訪問し、利用者の話に耳を傾けた。傾聴ボランティアは就業環境整備事業の実施期間中、合計25回行い、参加した会員は延べ86人となった。

活動日には、参加する会員は自宅などへ迎えに来たワゴンタイプのタクシーに乗り合わせて、施設へ向かった。1回の活動は30〜40分で、会員や利用者から「時間が足りなかった」「もう少し長く話したかった」との声が上がるほど、充実したものとなった。



傾聴ボランティアの様子。会員は利用者の話に耳を傾けていた

参加した会員は「話をすることで、少しでも幸せを感じたり、安心したりしてほしい」という気持ちで取り組んだという。一方で、「利用者の数に対して話を聞く会員の数が足りなかった」などの反省点も挙げられた。

これまでセンターでは、傾聴ボランティア養成講座を開催したものの、学びを生かせる場を提供できていなかった。そのため今回の

活動によって、「傾聴」を通して社会に貢献したい」という会員の思いに応えることができたという。就業環境整備事業としての活動は終了したが、令和7年7月からセンターのボランティア活動として、月1回のペースで開催している。

③公共施設等における就業

センターでは公共施設などの除草や清掃作業について、年齢が高くても協力し合うことで作業が可能になると考え、4人1組で作業に当たってもらうことにした。就業当日は4人で1台の送迎タクシーに乘車して就業場所へ向かった。送迎ルートは、各会員が希望する乗降場所をタクシー会社に伝え、効率よく回れる経路を考えてもらった。

移動手段がなく未就業となっていた会員に、自宅から就業場所までタクシーで移動できることを伝えると、「それなら就業できる」と喜んでいったという。これがセンタ

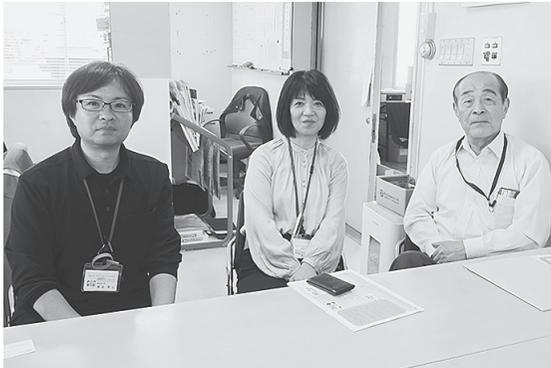
公共施設の駐車場で除草作業に当たる会員。送迎があることで、初めて就業に至った会員もいた



1での初めての就業となったという会員もいた。一方で、「4人で乗車するため、荷物や作業道具を減らさなければならなかったのが大変だった」「汗や土で汚れた服のまま乗車することを申し訳なく感じました」といった感想もあった。

就業環境整備事業の実施期間中、合計10回作業を行い、延べ30人が就業した。中には、今回の就業が

写真右から、魚田市SCの高橋達征理事長、佐藤久美子常務理事、菊池貴之事務局次長



弾みとなり、次の就業を始めた会員もいるという。

会員の思いに寄り添った就業環境に向けて

就業環境整備事業の三つの取り組みによって、これまで未就業状態にあった31人が就業することができた。送迎タクシーの運行便数は合計67便となった。

就業環境整備事業の効果について、佐藤常務理事は「『会員が移動の制限を受けることなく、就業や活動を続けられる環境を整備する』という事業の目的が果たせたと思っております。また、出張サロンや傾聴ボランティアにより、市民の健康増進や生きがいづくりにも貢献できたと考えています」と話す。さらに「年を重ねても生きがいを持つて働きたいという会員は多い。そんな思いに応えるために、年齢にふさわしい仕事や活動の場を提供できるよう工夫していきたい」と続けた。

出張サロンや傾聴ボランティアの活動は、今後も継続されることになったが、送迎は提供を終了した。移動手段の確保に関する課題は残る形となった。

そうした状況に、高橋理事長は「今後は、関係団体にも協力を求め、センター運営に必要な知見や情報を取り入れて、会員が継続して働ける環境をつくっていききたい」と思っています。年を重ねても諦めることなく活躍できる安心で安全な就業環境の整備によって、高齢会員の孤独・孤立の防止や地域社会への貢献が図れるよう、より一層努めていきます」と語った。

(増山美智子)

事業運営状況 (令和2年度～令和6年度)

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) 人 (人日)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男性	女性	全体						
令和2	284	169	453	3.7	278 (37,144)	61.4	2,433	205,170	18.8/81.2
3	275	169	444	3.6	287 (39,475)	64.6	2,537	221,042	19.2/80.8
4	271	175	446	3.7	262 (38,711)	58.7	2,571	213,890	23.4/76.6
5	305	196	501	4.2	351 (38,781)	70.1	2,454	213,230	24.2/75.8
6	307	217	524	4.4	370 (38,070)	70.6	2,687	218,960	25.0/75.0

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業を対象 ※就業実人員は労働者派遣事業の教育訓練受講を含む
 ※令和5年度以降は性別未回答の会員がいるため、会員数の男女計と全体は必ずしも一致しない